

青年招へい事業

中国

[交流レポート]

青年邀请计划

中国

[交流报告书]



2000

国際協力事業団

国内研

JR

01-03

青年邀请计划 —中国—[交流报告书] (2000)

2001年3月31日

发行 国际协力事业团国内事业部 研修业务课
〒151-8558 东京都涩谷区代々木2丁目1-1
新宿MAYNDS TOWER
电话 (03) 5352-5401~3

编辑 财团法人 日本国际协力中心 国际交流部
〒163-0489 东京都新宿区西新宿2-1-1
新宿三井大楼内
电话 (03) 5322-2571

未经许可不许转载。

信頼と友情への第一歩

走向信赖与友谊的第一步

平成12年度新日中青年の友情計画／新中国実務者招へい計画／
中国初等中等青年教員招へい計画

2000年度新中日青年友谊计划/新中国基层工作人员邀请计划/中国初等中等青年教员邀请计划

【開講式】

开幕式



国際協力事業団より歓迎のあいさつ
国际协力事业团致欢迎词



緊張した面持ちの青年たち
神情严肃的青年们

【共通プログラム】

共同活动



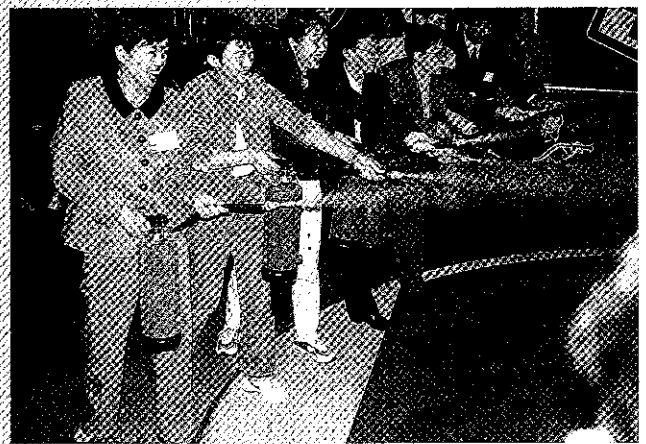
真剣に講義を聞く青年たち
全神贯注听讲座的青年们



日本語学習
日语学习



活発な質疑応答（講義）
气氛活跃的质疑答辩（讲座）



防災館を見学
参观防灾馆

【分野別都内プログラム】

分団都内活動



講義
講座



講義
講座

【合宿セミナー】

合宿研究会



交流パーティーにて
联欢会上



グループ別ディスカッション
分組討論



スポーツで汗を流しました
汗流浹背地参加体育活动



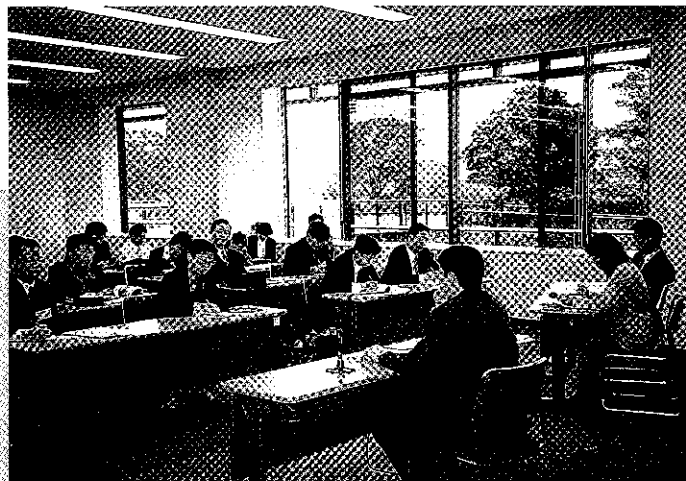
1173753【3】

【分野別地方プログラム】

分団地方活動



企業訪問
走访企业



講義
讲座



スポーツ交流
体育交流

【ホームステイ】

民宿活動

子供たちに囲まれて楽しく過ごせました
在孩子们中间渡过欢乐时光



水餃子づくり
作水饺

[見学旅行]

参观旅行



周恩来総理記念碑に献花
向周恩来总理纪念碑献花



清水寺にて
于清水寺

[閉講式・歓送会]

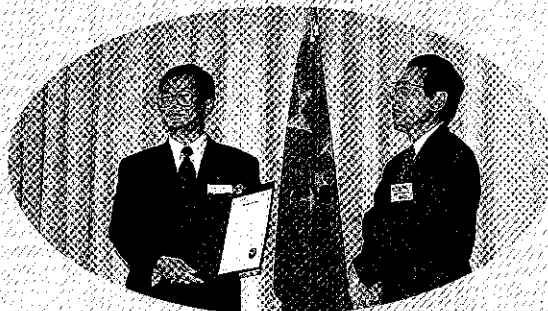
闭幕式・欢送会



団長より締めくくりのスピーチ
总团长作总结发言



国際協力事業団より閉講のあいさつ
国际协力事业团致闭幕词



参加賞の授与
颁发参加证书



友人がたくさんできました
又 结识了很多新朋友

最後に記念写真
合影留念



この友情いつまでも
友情地久天长

青年招へい事業

青年邀请计划

日本語編・日语篇	3
中国語編・中文篇	53

青年招へい事業

はじめに

「青年招へい事業」は、国際協力事業団（JICA）が開発途上国を対象に実施する技術協力の一環として、将来の国造りを担う青年を、専門分野別に約1カ月間招へいし、それぞれの専門分野について学ぶとともに、ホームステイ受入家族などとの幅広い交流を通じて相互理解を深め、信頼と友情を築くことを目的としています。

招へい国は当初アセアン6カ国のみでしたが、現在は120カ国・地域以上にまで拡大し、昭和59年度に事業を開始して以来、17年間で日本を訪問した青年は21,507名に達しました。これはひとえに、関係各方面の皆様のご協力と温かいご支援によるものと、心からお礼申し上げます。

本報告書は、招へい青年、合宿セミナーに参加した日本青年およびホームステイを引き受けていただいた全国の家庭の皆様から寄せられた感想文を中心に、招へい青年の滞在記録をとりまとめたものです。本報告書が本事業のさらなる発展の指針となり、また皆様の良き思い出の一助となれば幸いです。なお、本報告書は今年度の全招へい青年および各国の関係者にも送付させていただく予定です。

最後となりましたが、心温まるご感想、ご意見をお寄せいただいた皆様ならびに関係者の方々に重ねてお礼申し上げますとともに、「青年招へい事業」がさらに有意義なプログラムとなりますよう、今後ともご支援、ご協力を賜りたくお願い申し上げます。

平成13年3月

国際協力事業団
国内事業部
部長 今津 武

目 次

はじめに

I. 新日中青年の友情計画

1. 新日中青年の友情計画

1-1 概要	11
1-2 招へい実績	12
2. 招へい青年の印象	15
3. 合宿セミナー参加日本青年の声	17
4. ホストファミリーの思い出	19

II. 新中国実務者招へい計画

1. 新中国実務者招へい計画

1-1 概要	23
1-2 招へい実績	24
2. 招へい青年の印象	27
3. 合宿セミナー参加日本青年の声	29
4. ホストファミリーの思い出	31

III. 中国初等中等青年教員招へい計画

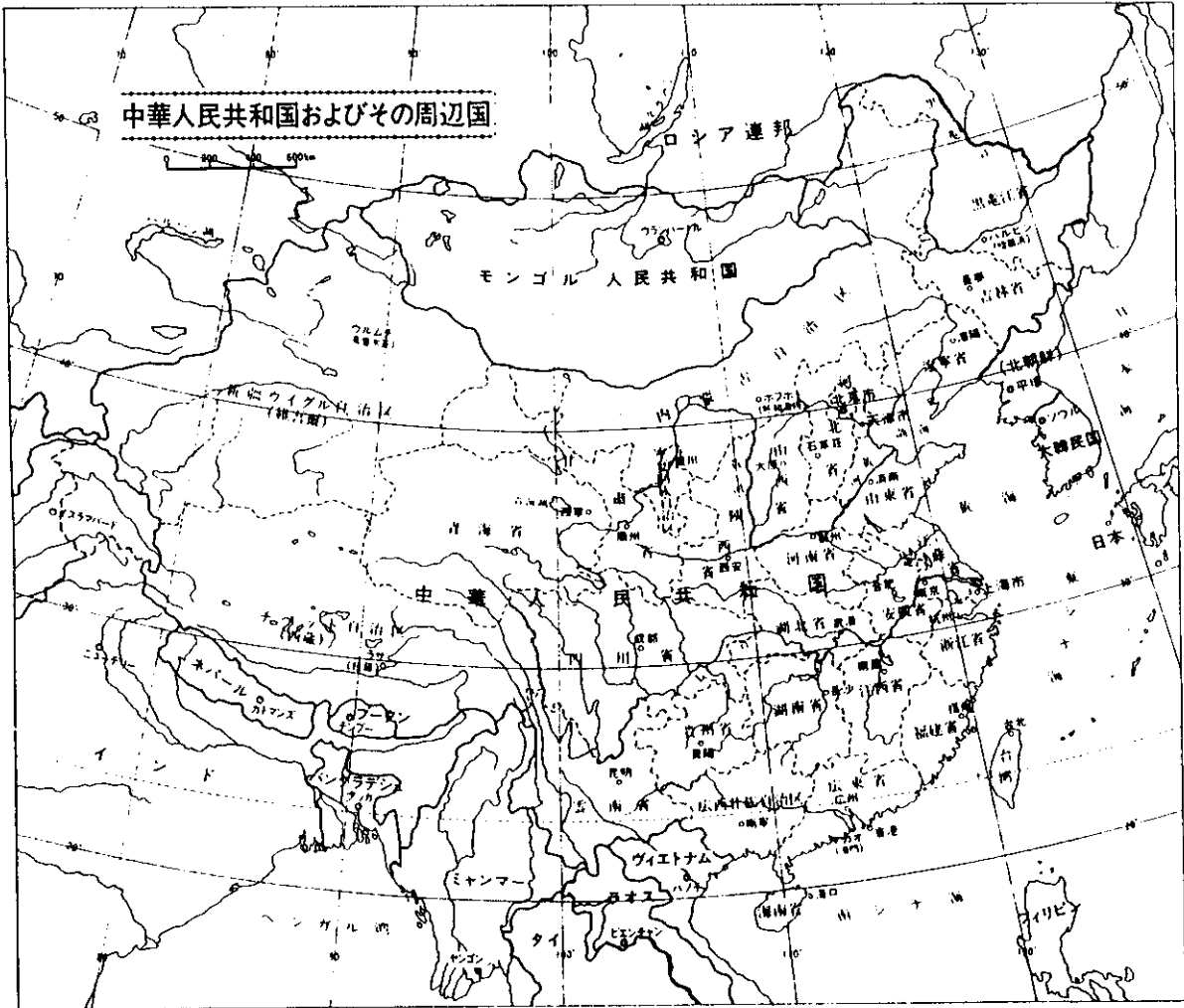
1. 中国初等中等青年教員招へい計画

1-1 概要	35
1-2 招へい実績	35
2. 招へい青年の印象	39
3. 合宿セミナー参加日本青年の声	41
4. ホストファミリーの思い出	43

実績資料

1. 実績一覧

(1) 新日中青年の友情計画	47
(2) 新中国実務者招へい計画	48
(3) 中国初等中等青年教員招へい計画	49
2. 平成12年度青年招へい実績一覧	50



I. 新日中青年の友情計画

1. 新日中青年の友情計画

1-1 概要

(1) 目的

「新日中青年の友情計画」は、日本と中国の青年の交流を通じ、21世紀に向けて、より良き未来と平和と繁栄を分かち合うために、相互理解と信頼を培うことを目的とする。

(2) 実施方法

ア 招へい人数

平成12年度は、100名を同時期に受け入れた。

イ 招へい対象者

下記分野における指導的立場にある20～35歳の青年。

(ア) 青年指導者 25名

青少年活動者及び関係者、大学職員、公務員、通訳。

(イ) 経済青年 25名

企業等役員・勤労者、公務員、団体職員、ジャーナリスト、経済学者。

(ウ) 公務員 25名

他の分野に該当しない一般公務員、団体職員。

(エ) 教員 25名

教育関係公務員、教育関係団体教員。

ウ 招へい期間

5月17日から6月13日までの28日間。

(3) プログラム概要

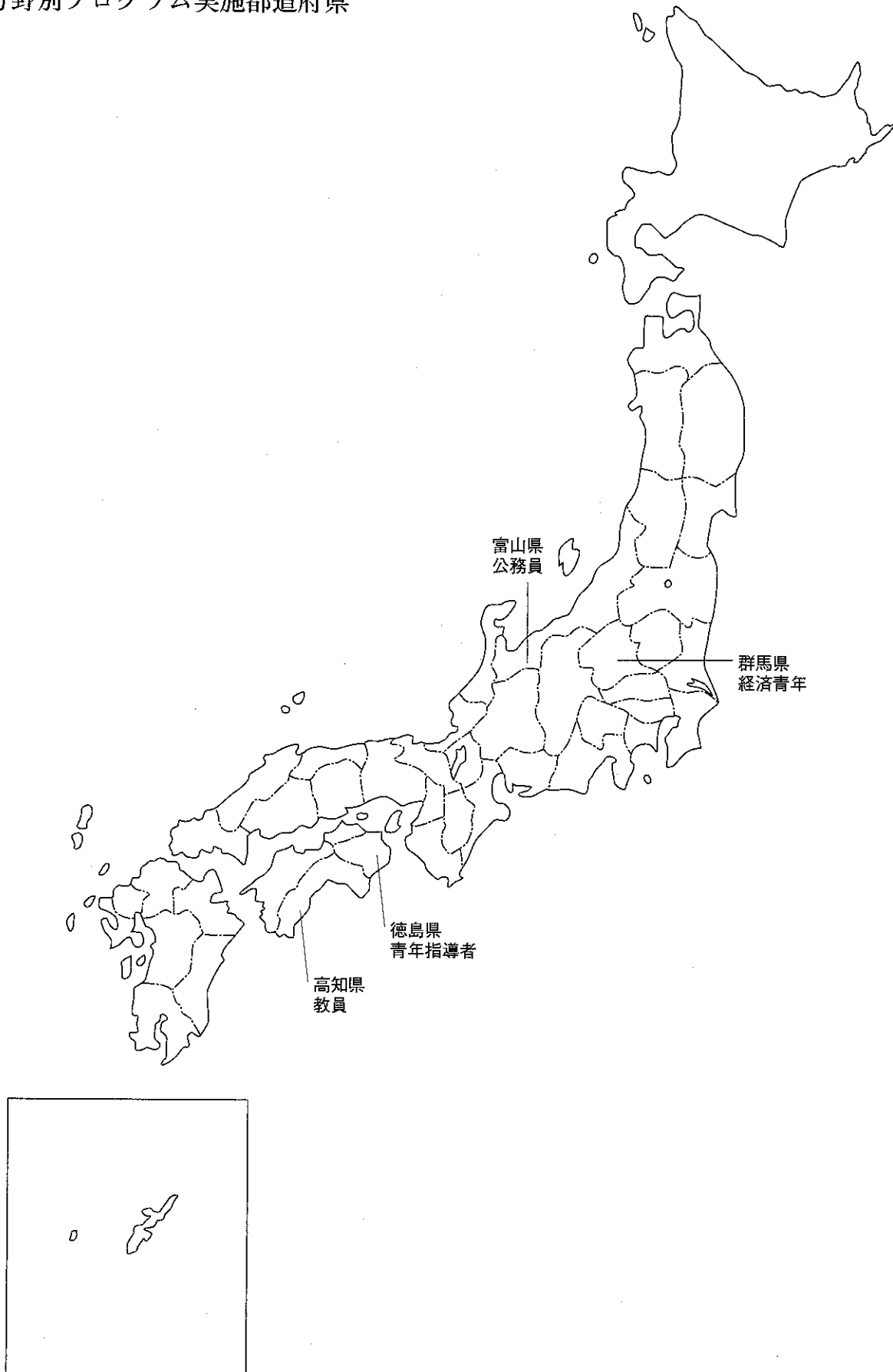
(数日間)	<p>現地オリエンテーションプログラム</p> <p>各グループの日本でのプログラム日程の説明 日本の生活にかかるガイダンス 日本語の日常会話の学習 渡航にかかる説明等</p>
来日	<p>共通プログラム</p> <p>日本の全体像及び日本における各分野の全体的状況について、正確な理解を促進するための文化、経済、歴史及び各分野の基礎的な講義及び施設見学</p>
(28日間)	<p>都内</p> <p>分野別プログラム</p> <p>招へい分野の講義や関連施設の視察、研修</p>
	<p>合宿セミナープログラム</p> <p>日本の同分野・同世代の青年との意見交換、交流の場</p>
	<p>地方</p> <p>分野別プログラム</p> <p>招へい分野の講義や関連施設の視察、研修及び地方の同分野・同世代の青年との交流</p>
	<p>ホームステイプログラム</p> <p>日本の家庭生活の体験</p>
	<p>見学旅行プログラム</p> <p>日本の文化、伝統、歴史等を理解するための見学旅行</p>
帰国	<p>評価プログラム</p> <p>全プログラムに関する評価会</p>

1-2 招へい実績

分野名	人数	実施協力団体	実施都道府県	地方実施協力団体
青年指導者	25	(社) 青少年育成国民会議	徳島	徳島県日中青年交流協会
経済青年	25	(社) 国際善隣協会	群馬	(財) 群馬県国際交流協会
公務員	25	(財) ユースワーカー能力開発協会	富山	(財) とやま国際センター
教員	25	(財) 日本友愛青年協会	高知	高知希望工程基金会

* 共通・評価プログラムについては、日本国際協力センターが全グループに対して実施した。

分野別プログラム実施都道府県



2. 招へい青年の印象

ルールの遵守

王 銳
(青年指導者グループ)

日本の高度な近代化に感心した。周知のように、人間の近代化は社会の近代化の前提である。日本を訪問して1カ月たって、常日頃考えている人間の近代化の象徴は何かという問題の答えを見いだすことができた。それは人間性に深く根付いた高度に自主的なルールの遵守である。

青少年の資質教育も専門の団体、あるいは活動だけに依存することなく、社会全体のルールの遵守という土壌の中で行動が規範化され、自覚が形成される。

日本人の仕事の効率化、仕事への奉仕の姿勢を支えているのもルールの遵守である。日本青年の豊かな個性が彼らの仕事に影響しないのもルールを遵守しているからである。

大きなルールである「法律を守る」ことから、小さなルールである「エスカレーターでは左に寄ること」まで、至る所で習慣的にルールが守られている。日本の人的資源の力が十分に発揮できた要因も根本的にルールの遵守にある。

国家近代化のために努力中の中国青年もこのようなルールの遵守を身につけ、確立させなければならない。

ホームステイの思い出

于 彦平
(経済青年グループ)

日本訪問を勇壮な行進曲にたとえたら、ホームステイはそのクライマックスである。そのメロディは自然で、親しみやすく、わが家に帰ったようなやすらぎに満ち、私は何とも言えない感動と好奇心を覚えた。

期待を込めて、私は細野明子さんの家に行き、ご家族の皆様と友達になり、そして、日本人の温かいおもてなしをいっぱい受けた。

短い2日間であったが、主婦の知恵と愛情にあふれた温かい家庭で楽しい一時を過ごすことができた。主婦の明子さんは家族愛と人類愛を持ち、誠実で、勤勉で、献身的な人である。彼女のような立派な女性が大勢いるから、日本という国は人情豊かな美しい国なのだろう。

今後、私はどこにいても、日本の前橋市宮地町を忘れない。そこには私の帰りたい家があるからである。

経済発展は環境を犠牲にしてはならない

呂 剛
(公務員グループ)

訪日団の一員として、日本での研修、見学、訪問などを通じて、日本人の中国人に対する友情、完備された社会基盤、および環境保全への取り組みなどの面で深い印象を受けた。

今日の日本はどこも山紫水明、緑豊かで、しかも交通網が発達しており、通信も便利である。このような環境の中で生活し、仕事し、勉強できることはとても恵まれている。しかし、日本人は今日のような環境を手に入れるために高い代償を払ってきた。

それに対して、わが中国は近年経済的に大きな発展を遂げ、人々の生活水準が著しく向上しているが、インフラの整備は立ち後れており、環境問題も極めて深刻である。近代化を目指すプロセスの中で、特に現在進められている西部大開発の中では、経済発展による環境への悪影響を極力回避する必要がある。

日本に学び、インフラの整備を強化し、環境保全を重んじ、環境と社会経済の調和のとれた発展を目指すことが大事である。

日中の友情、万歳！

楊 衛方
(教員グループ)

頭の中の日本は、書物から得た知識が多く、素晴らしいものもあればそうでないものもあった。魯迅先生の文章にある“上野の桜”は、私にこの国をじかに見てみたいという気持ちにさせた。

そして2000年夏、JICAの新日中青年の友情計画に教員グループの一員として参加する幸運に恵まれた。思い起こせば、人の外見は言うまでもなく、両国には共通点が多い。奥深い言語・文化・文字等、元をたどればその理念や思考の何と似通っていることか。私は、「小異を残して大同につく」という考え方を信じ、これに基づく相互信頼と理解、共なる発展を高く評価する。

中国人はたいへん親しみやすい民族であるが、日本人も同様だ。私は、理解が深まるにつれ離れ難くなる異国の友人の真の友情を肌身に感じた。現代の青年として、友好の使者として、ひと月間、行く先々で家族のように親しく接していただいただけでなく、忘れ難い多くの友人を得、視野も広まった。この貴い財産はこれからの私の人生に益するであろう。

日本人の友情を中国に持ち帰り多くの人に伝えたい。

日出づる国、日本。何と美しい表現であろうか。
日中の友情、万歳！

3. 合宿セミナー参加日本青年の声

交流は国境を超える

宮崎 奈々子
(団体職員)

中国は友人の国

松岡 綾
(会社員)

中国のことで知っていることは何か、と聞かれたら、なんと答えるだろうか。

北京の廉直、上海の陽気、中国料理、紹興酒。

以前ならこうも答えるだろう。

「日本と戦争をした国」と。

中国から来日された皆さんと、迎える立場の私たち日本人。出身も年齢も職業も違う多くの人たちが、知り合い、語り合っ、優しさを分け合っ、己が大海を知らなかったことに気づく、この驚嘆。言葉だけでない、気持ちを伝えようとする気持ち。慣習の違い。心の豊かさ。そのすべてが砂のように溶け合い混ざり合っ、心が近づいていくこの幸福。

水たまりで遊んでいた私が、いつのまにか川を下って、海に漂う。人のぬくもりに触れて、自分のぬくもりに触れる。みんなの優しさに導かれて、自分の優しさを見つけた時、私にはたいへんな幸福に思えたりして、自分を好きになる瞬間に出会う。

このあと、私は少し大人になった。

そして今、中国は、と尋ねられたら、私はこう答えるだろう。

「愛情の国」「友人の国」と。

友愛山荘での総勢50人の合宿セミナーは、楽しく充実し、大成功だった。私は以前に、中国で交流した際の「国境は関係ない」という感動を思い出した。国際交流といっても異文化を学びに相手国に行くのと、相手を母国に受け入れるのでは、違う意味でまた学ぶ点が多い。

合宿セミナー参加者は、おのおのできる範囲で行動していた。その姿勢が自然で感動した。相手を受け入れる際に、互いの相違、共通点を認め合いながら、相手を理解しようとしていた。それが同時に自分をも省みる機会となったため、合宿後に「視野が広がった」という意見が多かったのではないかと思う。

参加者の数だけ、感動や新発見があったからであろう。私はバスケットの試合中に、「トゥ、トゥ」と言われて投げたボールがきれいに入った瞬間、言葉が通じなくても周りの気持ちが一つになるのを感じた。

国境を超えた今回の交流を一期一会で終わらせることなく、それぞれの感動とともに今後の関係に近づきたい。

4. ホストファミリーの思い出

初めてのホストファミリーを 経験して

佐藤 真希
(徳島県)

10年前に香港を訪れて以来、もう一度中国に行ってみたくも思いつつも、その機会に恵まれずにいた。今回友人からのホストファミリーの依頼は、願ったりかなったりのたいへん感慨深いものになった。

わが家に来た青年は、英語も日本語もたどたどしいものであったが、なんとか意思の疎通はできるものである。一緒に買い物に付き合っていたり、本場四川の料理を作っていたり、とても楽しい2泊3日になった。

わが家でいちばんホームステイを心待ちにしていた息子は、すっかり彼に打ち解けていた。筆談や辞書を片手の会話だったが、なんとか意思を伝えようと努力するところに、面白味も生まれるというものだ。

出会った瞬間の、それから始まる3日間は長く感じられたが、過ぎてみると、とても短く、許されるものならもう少し居てほしかった。わが家全員が同じ思いである。

このような機会を与えていただいた関係者の方々と、彼に会えたことに感謝したい。

謝謝。

中国を肌で感じて

大槻 孝子
(群馬県)

私と娘は、前橋のホテルのロビーで、どんな中国の方がわが家に泊まってくれるのかな、言葉は通じるのかしら、と期待と不安を抱えながら待っていた。それぞれ、ホストファミリーと青年が次々に対面していった。チェンさんを紹介され、握手してあいさつしたら、今までの緊張が一気にほぐれ、楽しい気持ちになった。

2日目の夜は、チェンさんが汗を流しながら肉の塊をたたき、粉をこねて作ってくれた餃子で盛り上がった。家中大騒ぎで手伝い、カラオケをして、ビールで何度も乾杯した。そして、末永く親しくお付き合いをしていこうということになった。

ぜひ中国に来てください、と何度も熱心に言われ、中国に行こう、という気持ちが高まってきた。

出合いの妙味

谷内 美江子
(富山県)

普段のままで、とは思いながらも、どう過ごしていただこうか、と幾分迷っていた。しかし、「食事については気を使わないで。私は何でもOK」との李江華さんの言葉と、それに続く率直な話しぶりに安堵した。

この言葉は、彼のすべてのことに対する姿勢の表れであり、安心して3日間をともにすることができた。

彼の住む海南島のこと、中国の発展状況や問題点、政治機構、生活についてのことなど、明快に話された。こちらのこともよく聞かれた。夫の仕事について、綿密で好意的な提案をされたのは、面白かった。あえて話題を探す、ということもなく、ごく自然に次々と会話が成り立っていたことに、家族で今も感嘆している。

2晩とも夜半まで続いた彼と夫との話に、通訳をしながら、このご縁をうれしく思った。

Ⅱ. 新中国実務者招へい計画



1. 新中国実務者招へい計画

1-1 概要

(1) 目的

「新中国実務者招へい計画」は、日本と中国の実務者の交流を通じ、中国の近代化建設を支援するとともに、21世紀に向けて、より良き日中の協力関係を構築するために、相互理解と信頼を培うことを目的とする。

(2) 実施方法

ア 招へい人数

平成12年度は、100名を同時期に受け入れた。

イ 招へい対象者

以下の分野の指導的立場にある20～35歳の青年。

(ア) 人材育成 25名

公務員、教員、団体職員、ジャーナリスト、等。

(イ) 経済開発 25名

経済関係公務員、企業関係者、等。

(ウ) 地域振興 25名

省・自治区政府の地域開発関係者、団体職員、等。

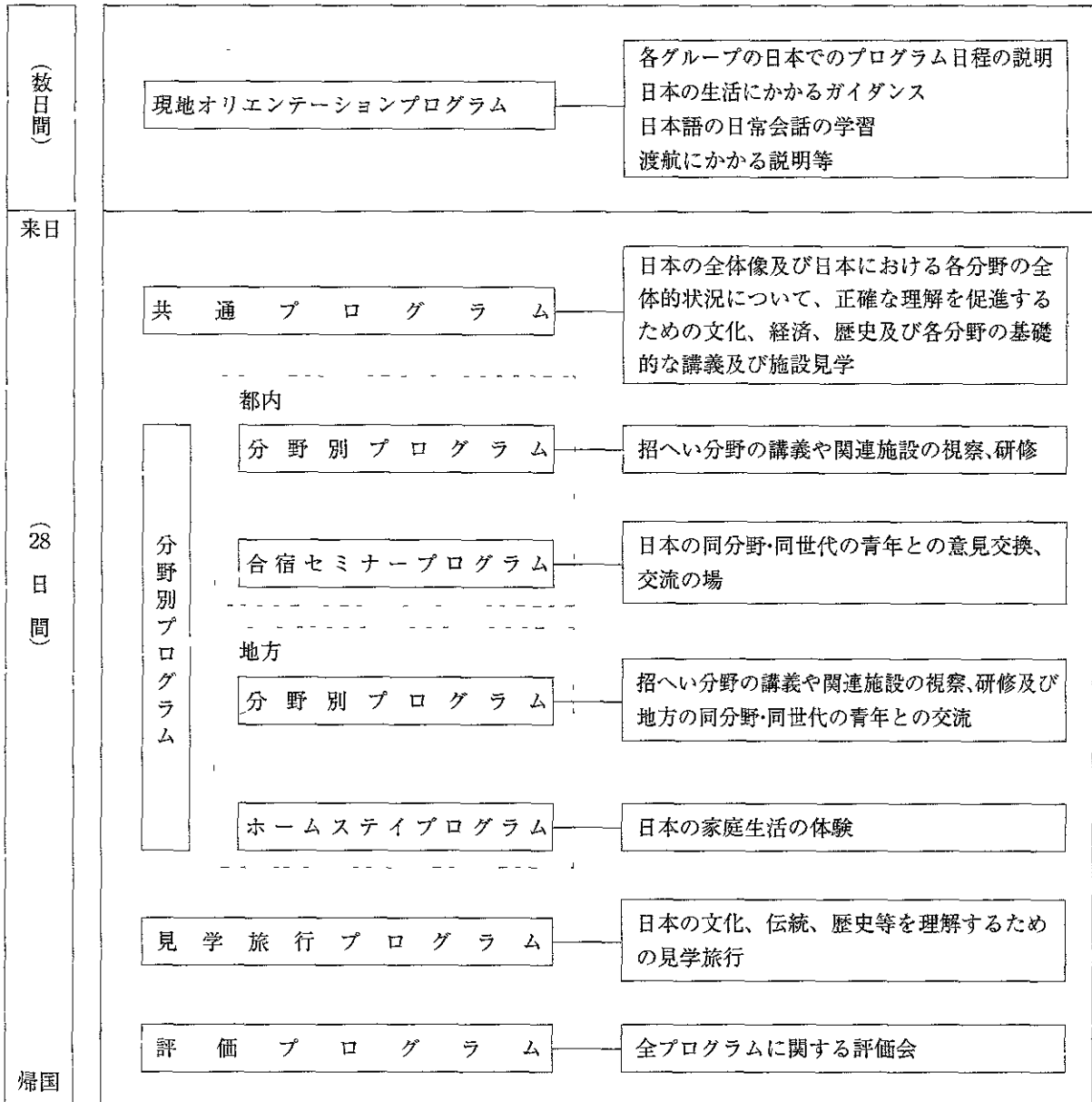
(エ) 産業基盤整備 25名

国家計画、建設、貿易・財政関係公務員、等。

ウ 招へい期間

10月11日から11月7日までの28日間。

(3) プログラム概要

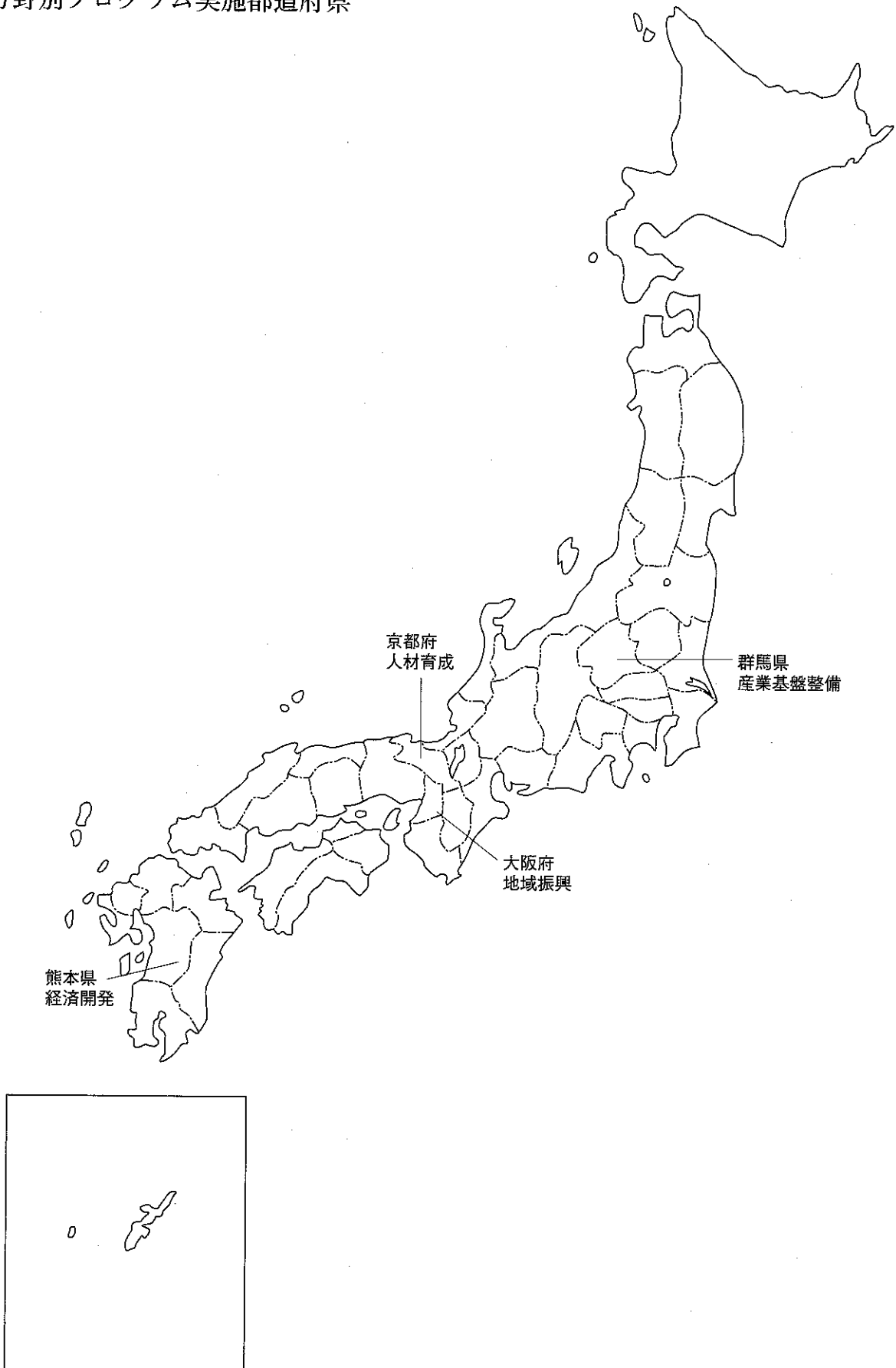


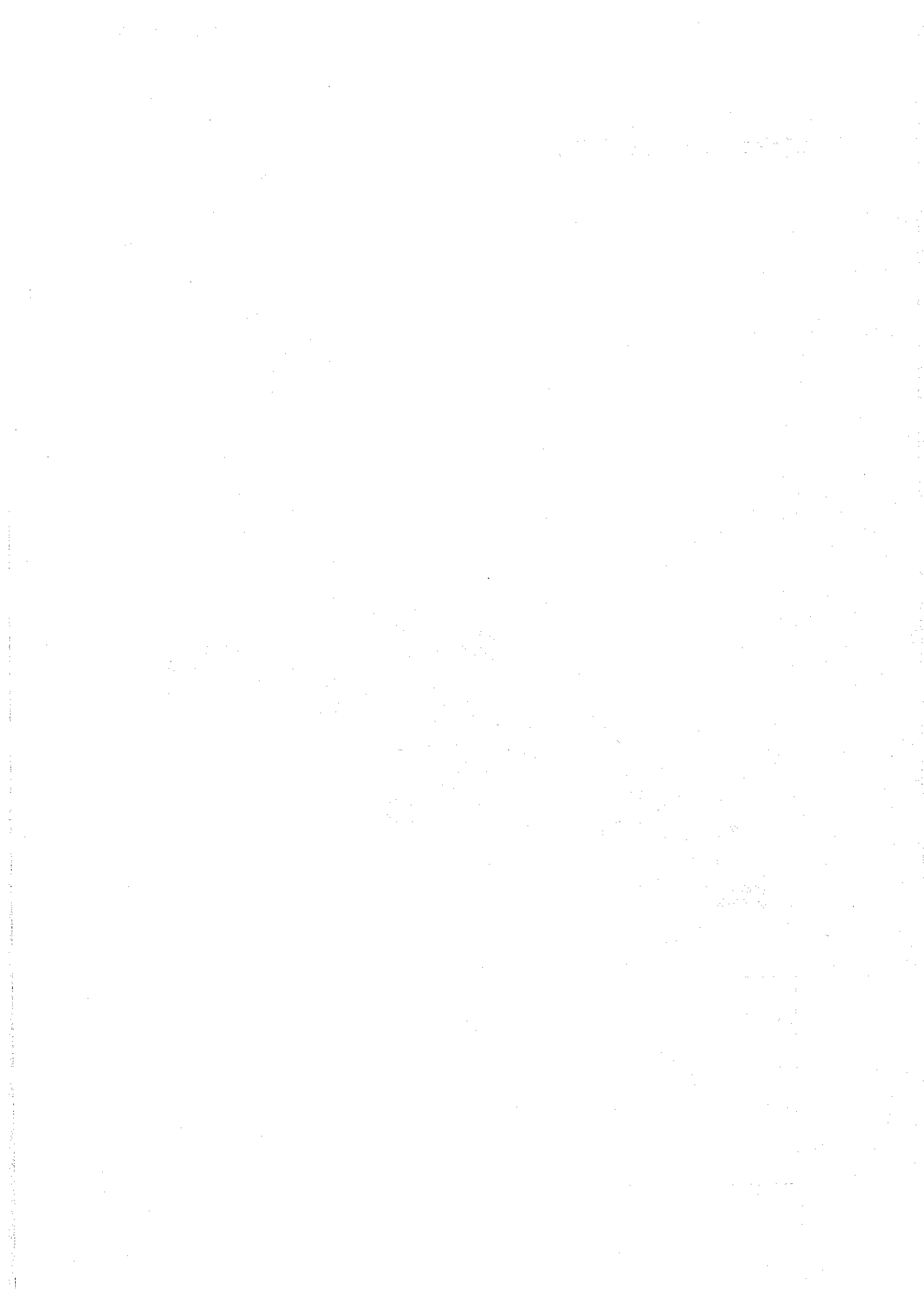
1-2 招へい実績

分野名	人数	実施協力団体	実施都道府県	地方実施協力団体
人材育成	25	(財)日本ユースホステル協会	京都	(財)京都ユースホステル協会
経済開発	25	(社)青少年育成国民会議	熊本	熊本県青年海外協力協会
地域振興	25	(財)ユースワーカー能力開発協会	大阪	(財)大阪府青少年活動財団
産業基盤整備	25	(社)国際善隣協会	群馬	群馬県世界青年友の会

* 共通・評価プログラムについては、日本国際協力センターが全グループに対して実施した。

分野別プログラム実施都道府県





2. 招へい青年の印象

理解を深め、友好を深める

劉 海明
(人材育成グループ)

このたびJICAの新中国実務者招へい計画の人材育成グループに参加し、私は多くの収穫を得た。JICAの手配した講義、見学、合宿セミナーおよびホームステイ等のプログラムを通じ、私は日本の政治、経済、社会などの状況について全体的かつ大まかな認識を得ることができた。

特に興味深かったのは、合宿セミナーとホームステイだった。日本の青年と共に生活し、討論し、日中両国間の相互理解を深めた。日本の一般的な家庭で一緒に生活し、日本のごく普通の家庭の雰囲気を感じ、日本人も中国人も同じであること、そしてそれぞれ喜怒哀楽があることも知った。

更に感動したことは、京都を離れる際、私のホストファミリーの69歳になるお母さんを含め、多くのホストファミリーの方々が駅まで見送りに来てくださったことだ。私のホストファミリーのお母さんは、わざわざ私の娘にお土産まで買ってくださいました。その時、私は本当に心から感動を覚えた。

交流は言葉という壁を乗り越えたのだ。

バランスがとれた経済社会の発展について

周 彤
(経済開発グループ)

日本の経済発展を支えている要因は、3つあると考えている。

1つ目は、勤勉かつ団結意識が強い国民性、そして社会全体が教育を重視していること。

2つ目は、平和な国際環境と国内の安定的社会環境に恵まれ、経済発展のチャンスをタイミングよくつかむこと。

そして3つ目は、世界経済、特にアジア地域における経済成長も日本経済にメリットをもたらしたことである。

しかし、私たちが深く関心を持っている現代日本社会が直面する問題も提起したい。経済成長に伴って、日本は高齢化社会、青少年犯罪など新たな問題を抱えているようである。社会構造の変化のなか、数少なくない若者が日本固有の文化伝統を重視しなくなっている傾向が感じられる。これは今後日本における継続的経済の発展に、かなりマイナスの効果をもたらすだろう。また、多くの女性が家庭にしばられ、受け身的立場にされているようである。従って、女性の社会に対する貢献力は、社会の進歩につれ地位の向上とともにもっと発揮されると考える。

高度な経済成長を果たした日本は、上述した問題をうまく乗り越え、更に発展するであろう。

現代と伝統の間を歩む若者

朱 鷹
(地域振興グループ)

日本の若者の現代的な面と、伝統的な面は、どちらも私たちの想像をはるかに超えていた。街で黒髪の若者を探すことは、髪を染めていない若者を見つけるよりも難しいほどだ。鼻や唇にピアスをしている若者もある。原宿の街角で見た顔をカラフルにペイントし、厚底の靴を履いて“闊歩”している若者は私たちにはほとんど“奇異”に見えたほどだ。しかし、半面、日本青年の仕事に対する責任感と奉仕する精神にも深く感動させられた。私たちを受け入れてくれた(財)ユースワーカー能力開発協会の堀添英人氏は、まだ若いのに、日々のスケジュールの手配、受入業務、ともにとても周到に用意して下さった。国会を見学した後の昼食時、理由は分からないが一人分足りなくなり、堀添氏はメンバーに迷惑をかけるまいかと、自分だけ昼食をとらなかった。黙々と仕事をする精神に皆が感動した。

日本では多くの若者が青年海外協力隊員として中国や世界各国に赴任し、援助をしている。彼らは家族と離れて、異国の地で、食事や生活、気候等の異なる条件の下で、人々のために自らの青春を捧げている。私たち中国の青年は彼らを通して、日本の若者の理想に富んだ崇高な精神を見いだした。

持続可能な発展を保証するもの

靱 儀麟
(産業基盤整備グループ)

日本を訪問しての主な感想として、以下の3つがある。

日本は教育を基本とした国民の資質向上策で著しい成果を収めた。日本国民は「日本は資源が乏しく、自然災害が多い」という教育を受けた。そのことは日本国民に危機意識と勤勉さ、節約という優秀な資質を身につけさせた。日本人の団結意識と勤勉さ、仕事へのまじめな取り組み姿勢は日本が世界第2の経済大国になる基礎を築いた。

日本が科学技術の研究と開発を重視し同時にそれを実践したことは、科学技術の発展が経済の発展を推し進めること、国力を強化し国民の生活を豊かにする第一の原動力となることを証明した。先進的な科学技術は人々の生活や生産現場、企業管理の中に生かされている。

日本政府は一連の体系的、効果的な環境保全法律を制定し、国民に環境保全の重要性を認識させ、政府が主導して国民こそって積極的な環境保全の意識を持つようにさせた。中国は今持続可能な発展政策、つまり発展と環境保全の関係をバランスよく処理できるような政策を進めているが、日本の成功した経験は私たちが手本とするに値する。

国民の資質向上と、科学技術と環境保全を重視することが持続可能な発展を保証するのである。

3. 合宿セミナー参加日本青年の声

合宿セミナーに参加して

津村 祐司
(公務員)

国際交流への出発点

藤平 聖一
(会社員)

今回、初めて合宿セミナーに参加した。2泊3日という限られた時間だったが、多彩なプログラムが組まれており、非常に有意義な体験となった。

特に、グループ討論では、環境問題、少子化と高齢化による諸問題などについて、両国の実情とその改善について、建設的な討論をし、相互に理解を深めることができた。

また交流パーティーでは、お酒を飲みながらの歓談、余興、そして最後には「オハロック」を踊り、楽しい時間を過ごせた。

合宿セミナーでは、言葉の壁は意外と薄く、言葉が通じなくてもお互いがお互いを思う気持ちは十分伝わるものと実感した。

合宿セミナーは終わったが、今回築くことのできた友情はスタートを切ったばかりだ。これからも継続的に交流し、お互いの理解を深めていきたいと思う。

私は、滋賀県水産試験場で淡水魚介類の利用加工研究と琵琶湖定期観測調査に従事している。環境問題についてグループ討論の場が提供されること、自己負担がゼロであること、有給休暇の積極的な活用が求められていること。以上の点から中国の産業基盤整備グループとの合宿セミナー参加を希望した。

合宿セミナーは、2000年10月20日から22日の3日間、神奈川県逗子市で開催された。

1日目はスポーツ交流とパーティー、2日目はグループ討論、3日目はグループ討論内容の発表であった。提供された食事も豪華で、宿泊施設も立派なものだった。

私はグループ討論の際、滋賀県の環境問題についての話題提供を行ったが、時間の制約もあって、かなり省略して発表した。それでも、中国青年には私の発表内容が、理解されていたということだった。

私は合宿セミナーに参加してよかったと思っているが、合宿セミナーへの参加を考えている人につだけ言いたいことがある。それはこの事業が日本国民の税金ですべてまかなわれている、ということである。

合宿セミナー参加者は、合宿セミナーを納税者の納得の得られるような充実した内容にする義務がある、と私は考える。

4. ホストファミリーの思い出

初めてホストファミリーを 経験して

K・T
(熊本県)

ホームステイを受け入れて

中内 美帆
(京都府)

私の家にホームステイしたのは、中国人の外交官、シュイさんだった。

今まで何人かの外国人のホームステイを受け入れてきたが、ほとんどが英語を話す人たちだった。私の家族は英語が苦手なので、私を通して英語の会話をしていたのだった。しかし、今回は、漢字で筆談ができたので、家族みんなが積極的に交流し、楽しんだ。

三千院や二条城へ行った後、私が習っている茶道の先生の家に行き、茶道の体験をしてもらった。先生は、着物を着て出迎えてくれ、お茶をたてた後は一緒に写真撮影をしたり、先生も大喜びだった。また、両親と姉と行った太秦映画村では、シュイさんは、日本の古い街並みに喜んでいて。

短い期間だったが、中国と日本の似ているようで違うところを発見したり、同じ漢字を組み合わせた言葉が、中国と日本では全く違う意味で使われていることを知り、楽しい時を過ごした。

一緒に出かけると、いつも家族のことを気にかけてながら行動し、とても気の利くところのあるシュイさんだった。

またいつか会えたらいいな、と思っている。

初のホームステイ受け入れであったが、英語が全く話せず外国人に慣れていない両親が、戸惑いながらもポディーランゲージで楽しそうに話している姿がとてうれしかった。私も曹さんも、英語を話せたので、会話には全く問題はなかった。

曹さんとの時間は本当に楽しく、多くのことを学んだ。大学で経済開発・人口論を学んでいた私は、中国の経済開発にも興味があり、いろいろな質問をした。それに対して曹さんは一つ一つの確に答えてくれた。私たち2人は、経済・政治・文化とさまざまな事柄についてディスカッションできたのでとてもよかった。

短い3日間だったが、無理して日本文化（伝統的なもの）を教えるのではなく、ありのままの日本の生活を体験してもらった。

それは、曹さんにとっての国際交流であるだけでなく、彼女がわが家で生活することによって私たちも大きなものを得られたと思っている。

曹さんと私のモットーが、「自分で実際に体験してその国の文化・人を知ること」という共通のものがあったことが、今回3日間をうまく過ごせた理由だと思う。

家の中の国際交流

井場 伸行
(大阪府)

わが家は大阪市内のニュータウンにあり、私たち夫婦と子供2人の4人家族である。そのわが家のゲストが外交官、と聞いて、少々重たい気持ちで迎えることとなった。

しかし、ゲストの孫さんは、気さくで優しい方で、さらに日本語も話し、来日経験も豊富ということだった。お互いの国の文化や習慣を話し合うにも、なんら障害はなく、普段どおりの生活を見て、理解してもらえた。

期間中は天気もよくなかったうえに、特に観光の希望もなかったので、在宅時間が長くなり、相互理解をするのによかったと思う。

夜はみんなで鍋を囲んでそれぞれの国の教育事情などで大いに盛り上がり、話題に事欠かない、楽しい3日間だった。子供たちもとても喜んだ時間だった。